

諮問の趣旨：行財政改革の観点からH32年度の図書館のあるべき姿・サービス水準、およびコストを実現するとともに、今後の社会変動とニーズに対応できる図書館施設の配置を考える

H32年度の図書館：「特定事業の見直し項目」A～Fの実現

- A ①②③ 本市図書館事業の独自性
  - ①学校図書館と公共図書館の連携の強化
  - ②地域の課題解決に資するための情報提供、市民との協働・関係部局との連携現
  - ③知識・情報の地域における発信・共有・還元の間づくりを通じ「学びのまちづくり」を実現
- B 自動貸出・開館日数および開館時間の延長・返却ポイントの拡充など利用サービスの向上の実現
- C 本市図書館の独自性(A)とサービス向上により、登録率60%の達成
- D H32までに市民1人あたり2,000円以下へコストダウン
- E A～Dを実現する手法・・・ICTを活用したカウンター業務の効率化、本市独自の考え方にもとづき外部活力の導入を検討(指定管理者制度・各種業務の外部委託化・市民との協働)、H25年度に方向性決定
- F 特色ある図書館づくりや地域の知の拠点としての施設のありようなどをふまえた今後の戦略的な施設配置について、館数の見直しをはじめ複合化・多機能化なども視野に入れ、H25年度に具体的な配置計画を策定

行財政改革からの課題：図書館総経費のコストダウンとサービス水準と戦略的施設再配置

H25. 6 答申

「今後の戦略的な施設配置については、市全体の施設の複合化多機能化も視野に入れつつ、老朽化施設の再配置を考えるに際しては、館数の見直しなども考える必要がある。しかしながら、館数の見直しや再配置については、各地域ニーズへの対応や図書館ネットワーク機能を担保できるよう考慮しなければならない。」

現状 南部地域の活性化を目指して、(仮称)南部コラボ構想の進捗状況も見据えながら、現在4地域館4分館1室の9館体制で運営

豊中市市有施設有効活用計画に基づく現在の動き(資産活用部施設活用推進室ファシリティマネジメントチーム)

市有施設個々の検討を様々な視点から行い、図書館も特定施設として市有施設有効活用部会(審議会 学識経験者4人・市民委員1人)において検討中

- 資料1 施設配置図
- 資料2 年間貸出人数1000人—町丁目毎—館毎 等値線 ←人口に対する割合ならば理解しやすい
- 資料3 施設概要一覧
- 資料4 サービス状況一覧
- 資料5 S56 図書館システムを完成させるための長期計画について(答申)
- 資料6 H2 豊中市における図書館施設計画について(提言)
- 資料7 図書館施設整備計画について(上記答申・提言を受けて)
- 資料8 連携と協働ネットワーク図(館別)
- 資料9 業務構造図
- 資料10 H17 これからの豊中市立図書館の運営のあり方について(提言)
- 資料11 H25 指定管理者制度(部分委託のあり方を含む)の導入について(答申)
- 資料12 H24年度版 豊中市の図書館活動(本編・統計編)

・館別 施設面での課題と特徴

地域館	岡町	(設置年はS20)S44～48現在の建物に H3～4大改修 H24子ども室部分耐震工事) 全体的に老朽化 雨漏り等
	庄内	S50老人福祉センターと公民館との複合施設 H4～5 改装工事 老朽化 南部地域の施設見直し計画が進行中(図書館が含まれるかどうかは未定)
	千里	(設置年はS53) H20建て替えリニューアル 千里コラボ:出張所・保健センター・公民館・老人福祉センターとの複合施設 便利な立地で利用が多く滞在型利用には不向き 吹田市との広域利用対象館
	野畑	S63 周辺地域に公共施設が少なく、コミュニティの場として集会室を提供 雨漏り等
分館	服部	H11 デイサービスとの複合施設 吹田市との広域利用対象館

	高川	H12	スポーツルーム・老人憩の家・デイサービスセンターとの複合施設 吹田市との広域利用対象館
	東豊中	H5	幼稚園との複合施設 吹田市との広域利用対象館
	蛍池	H15	蛍池駅前再開発ビルルシオーレ内5階
分室	庄内幸町	H5	庄内に近い小型館 阪神淡路大震災後周辺人口減 H23に一部機能変更「学校図書館支援ライブラリー」(教員支援資料・調べ学習パック)

### 全域サービスから

- ・ 全域サービスの観点からの課題

図書館から遠い地域が2か所・・・利倉西(猪名川沿い尼崎に隣接)と東寺内(緑地公園駅近く)

- ・ サービスの手薄な地域には、広域連携で対応を検討すべきだ。

### 利用状況から

- ・ 各館の利用状況と各地域の人口構成等との関連性を明確に示すことは可能か？  
⇒ 複数館利用も多く、館ごとのサービス圏を明確に切り分けしにくくことなどから、地域の人口構成等との関連性について示すことはむずかしい。
- ・ 貸出返却以外の利用者を含む来館者数： 地域館が約1.5倍 分館が約1.7倍
- ・ 利用統計から読み取ると、18歳から20歳代の青年期の世代の利用が少ない。  
情報環境の変化による影響もあるのではないか  
今は大学生にも図書館の使い方を教えなければならない時代 知ったら使う  
小さい時期から図書館の利用の仕方を身に付けておくことが大切だ  
必要ときに図書館に戻ってくるようなサービスができているかどうか

### 施設の状況から

- ・ 各館利用者のアクセス方法について：徒歩・自転車・自動車・バス・電車
- ・ 駐車場の有無／複合施設と単独施設のの違い  
豊中市は、学校・病院・商業施設などが分散しており、交通網も入り組んでいる。他市のような大規模中央図書館を造って、業務を集中させることは考えにくい。

### 施設に期待される役割から

- ・ 自然災害の際には避難場所となる施設であり、老朽化は問題である。しかも自然災害が大変身近な時代になっている。
- ・ コミュニティの安心・安全というものを保障していく役割をもつ公共施設としての配置・あり方。
- ・ 庄内図書館と庄内幸町図書館を統合することは可能か。南部コラボの構想の行方は。
- ・ 子育てや就業・就労支援のための情報提供の場としての図書館に期待。
- ・ 図書館のネットワークを機能させるには、必ずしも大規模な中央図書館は必要ではない。機能分担することで可能。
- ・ 資料保存の機能については、検討が必要だ。

### コストから

- ・ あまり数字にからめとられてはいけない。図書館事業に効率性はそぐわない。コストを語る場合には、同じようなクォリティのサービス同士で比較をすべきだ。
- ・ コストの問題をボリュームで考える時代は終わり、クォリティで考えるべき時代になった。ボリュームが減ったからといってクォリティを落としては、利用者は納得しない。
- ・ コストの問題もクォリティで考える必要がある。
- ・ 理念・目的の具体的実現に際し、コストの問題から取捨選択をどのように行うか。  
図書館側としてこれからの方向性を示す必要がある。
- ・ 財政的な条件により以前作られた施設配置計画がストップし、施設の見直しとコストダウンが求められている。しかし図書館の使命と理念、基本目標の達成を目指して、サービスの向上が図られなくてはならない。この二つがどう両立するか、市の考え方・方向性をある程度明確に示すべきではないか。

豊中市立図書館中長期計画(グランドデザイン)・・・市としての方向性・考え方(現在公表に向け庁内調整中)

コストダウンのための方策・・・自動貸出機・ICタグの導入、人件費の縮減